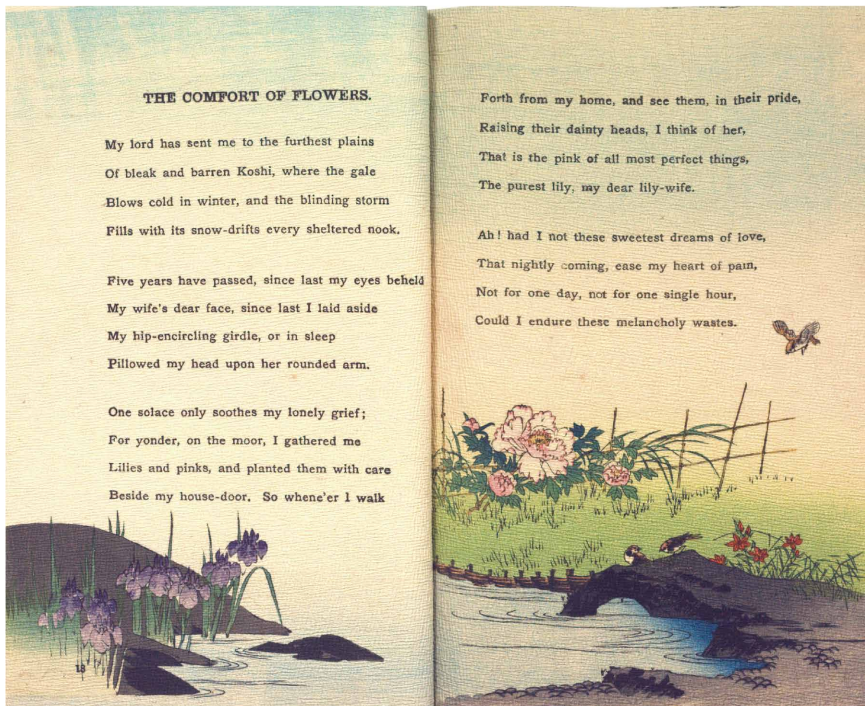


図版1 Karl Adolf Florenz, *Poetical Greetings from the Far East: Japanese Poems*. 表紙



図版2 The Comfort of Flowers. (同書, pp.18-19)

カール・アドルフ・フローレンツ

『極東からの詩の挨拶：日本の詩(英文和歌集)』1896(明治29)年刊

Karl Adolf Florenz (Translator : Arthur Lloyd)

Poetical Greetings from the Far East : Japanese Poems. Tokyo: Hasegawa. 1896.

日文研「ちりめん本データベース」(<https://shinku.nichibun.ac.jp/chirimen/>)より

本書は、カール・アドルフ・フローレンツ(1865-1939)が和歌を紹介した独訳本 *Dichtergrüße aus dem Osten: japanische Dichtungen* をアーサー・ロイド(1852-1911)が英語に訳しおろした一作である。フローレンツは、御雇外国人として1889年から1914年まで東京帝国大学でドイツ文学・ドイツ語を講じ、帰国後はドイツにおける日本学を創始した人物として知られる。『日本文学史』を纏め上げるなど、日本の詩歌に対しても造詣が深かった。

本書は、愛情・自然・人生・宮廷詩・諸々の詩・叙事詩といった六つの章からなり、山上憶良や大伴家持などの長歌や反歌、詠み人知らずのものも含め、『万葉集』の歌が多くを占めている。また、『古今和歌集』からも壬生忠岑や紀貫之らの歌が選ばれ、「桶狭間の夜戦」など新体詩も掲載された。三島蕉窓、新井芳宗、鈴木華郵らによる画は、「ちりめん本」としては大著の97ページにも及ぶ本書の価値を一層高めている。

「ちりめん本」とは和紙に印刷したのち、絞って加工し和本に仕立てたものである。柔らかい手触りと、絹の縮緬布に似た風合いからその名が付けられた。明治期に来日した外国人のお土産用として作られ始め、海外での日本文化紹介に一役かっていた。日文研には、明治中期から昭和初期にかけて日本国内で出版された「ちりめん本」のうち、絵本を中心とした200点ほどのコレクションが所蔵されている。

(解説：光平有希)